

府立吹田支援学校



テーマ:「はかる」をテーマとした、小→中→高のつながり、生活に関する体験を交えた授業づくり

概要

生活に役立つ知識や技能を身に付けられる授業をめざして

吹田支援学校では、パッケージ研修支援を、シラバス作成と合わせて、すべての教科(領域)において同様に「学習の連続性」を意識した教育を確認する機会であると考え、全校研修としてすすめています。今年度は数学科が中心となって取り組み、「はかる」を共通のテーマとしました。

実施スケジュール

Research

7月上旬

担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

9月4日(水)

全体会

テーマ「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」

Plan

10月中旬~

指導主事による授業見学・指導案検討

Do

12月18日(水)

研究授業・研究協議(中学部:数学)

12月19日(木)

研究授業・研究協議(中学部・高等部:数学)

Check & Act

1月中旬

アンケート集約

全体会

9月4日(水) 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」

支援教育推進室指導主事より

子どもたちを取り巻く環境の変化について
今の子どもたち、これから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する際の社会とは？
2045年には人工知能が人間を超える？
子どもたちの85%は将来、奇は存在しないか「職業」に就く？
今後10年から20年程度で半数近くの仕事が自動化される？
支援学校の子どもたちの進路は？

キーワード1 育ちをめざす資質・能力
育ちをめざす資質・能力
1 「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く知識・技能の習得)
2 「理解していること、できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成)
3 「どのように社会・世界と関わり、よよい人生を送るか」(学びと人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養)
評価の三つの観点
① 知識・技能
② 思考・判断・表現
③ 主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領
生きる力
学校教育法
学力の三要素

キーワード2 社会に開かれた教育課程
「社会に開かれた教育課程」の三つの側面
学校 社会
教育課程を介して、目標を共有
教育課程において、資質・能力を明確化
子どもたちに必要とされる学びに必要な知識・能力
教育課程の実現に向けて、目標の実現に向けた連携
地域の人的・物的資源の活用、社会教育との連携

キーワード3 主体的・対話的で深い学びの実現
主体的・対話的で深い学びの実現
意欲を持って取り組むこと
学習活動を振り返って次につなげることができる
多様な学習活動の組み合わせ
深い学び
各教科等の特質に応じた「見方・考え力」
育成をめざす資質・能力

キーワード4 カリキュラム・マネジメント
「主体的・対話的で深い学び」を実現に向けた授業改善を行うために、**学校全体として努めること**
① 教育の内容を教科等横断的な視点で組み立てること
② 教育課程の実現状況におけるPDCAサイクルの確立
③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保
④ 「個別の指導計画」の実現状況の評価と改善
カリキュラム・マネジメント

授業づくりのプロセス
Plan
2022 子どもの教育的ニーズの把握
2023 個別的教育支援計画の作成
2024 個別の指導計画の作成
Do
2025 授業計画(学習指導案)の作成
2026 授業の実施
Check
2027 評価の実施
授業や指導計画等の改善
PDCAサイクルを繰り返して、授業・学習を改善していく。

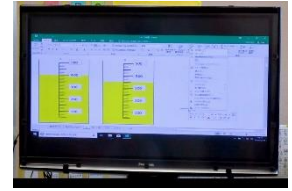
授業改善のための視点について
実現には、三つの視点が必要とされる。二つは必ずしも実現はしない。
視点1 主体的・対話的で深い学びの視点
視点2 社会に開かれた教育課程の視点
視点3 個別の指導計画の視点

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善についての講義を行いました。主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れたうえで、各授業者より「はかる」をテーマとしてどのような授業を行っていくのか発表が行われました。(資料は抜粋)

研究授業(1)

学年・教科： 中学部1年 「数学」
 単元名： 「かさ」

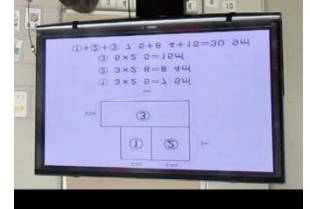
研究協議のポイント
 水のかさの比較について、どのようにすれば単位を使うことよ
 さに気づくことができるのか、生徒の疑問を単位の学習に結び付
 ける授業展開の工夫について協議しました。



研究授業(2)

学年・教科： 中学部2年 「数学」
 単元名： 「色々な形の図形の面積や周りの長さを
 求めよう」

研究協議のポイント
 2つの部屋の面積比べをするという授業展開のうち、子どもたち
 の疑問を主体的な活動につなげ、そして達成感へと導く工夫につ
 いて協議しました。



研究授業(3)

学年・教科： 中学部3年 「数学」
 単元名： 「多い量を選ぼう」

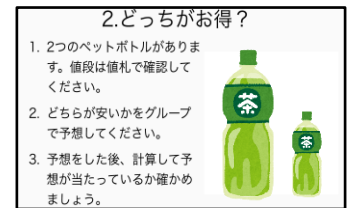
研究協議のポイント
 視覚的にわかりやすい量の比較を行い、生徒が「多い」「少な
 い」の判断を授業のなかで実際にできるような体験的活動の工夫
 について協議しました。



研究授業(4)

学年・教科： 高等部2年 「数学」
 単元名： 「日常で見る量と商品の金額の関
 係について考えよう」

研究協議のポイント
 量と値段が異なる教材の比較から生まれる生徒の疑問を「単位
 量あたりの金額」を求めて比べることにつなげる授業展開の工夫
 について協議しました。



成果

「はかる」をテーマとして異なる学部の教員が連携をとりながら、授業づくりをすることで、同じ教科に携わる教員間の同僚性が高まりました。また、各学部の生徒の実態を踏まえながら、生活に関する体験を交えた授業づくりをすることで、学校全体として生活に関する体験を交えた授業づくりの大切さを再認識する機会となりました。

他教科の教員が全体会や研究授業に参加すること、職員会議での報告を通して、教科の目標に基づいた授業づくりについてさらなる工夫や改善をするきっかけとなりました。

アンケート結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- 意識改革という点について、同じ教科の教員のつながりをつくるよい機会となった。学部を越えたつながりができたことで、学校としての教科に関する目標を確認、共有できた。